学芸会 小学校高学年 「タピオカツンドラ!」

小学校 第6学年担任 唐澤 享輔

１０月３０日（日）前日からの雨が少し残り、例年よりも涼しい風が吹く中、令和４年度の学芸会が行われました。小学校は今年も１・２・３年生と、４・５・６年生の２つに分かれて劇をしました。２学期が始まる頃から、早くも子供たちからは今年はどのような劇をするのか、互いに話し合いながらソワソワする様子が見られました。すでに内容を知っている立場からすると、子供たちがどのように劇の内容を受け取るのか、期待と不安のどちらも感じながら過ごしていました。

（観客にクイズを出す場面、この一体感がこの演目の醍醐味です。）

今年の劇の題名は「タピオカツンドラ」、題名のみではその内容が全く想像できないお話です。今回この演目を選んだのは、子供たちからの要望で、あまり有名ではなく、現代物の内容がよいということと、観客を巻き込める構成になっていたのが理由です。演劇の楽しさとは、思いっ切り演じ、その反応が多く返ってくる時に感じるものだと考えていたので、ぜひ子供たちにもその経験をして欲しいと思っての演目決定となりました。

練習が始まってからは学芸会ムードが一気に高まり、休み時間や授業中にも演技の仕方や小道具についての話が飛び交いました。互いにアドバイスを出し合ったり、演技の上手な友達の真似をしてみたりと、さすがは毎年経験しているだけあり、それぞれの工夫の仕方がとても効果的でした。練習を積み重ねる中で順調に上達する姿を見て、こちらもよりよい劇にしようと気持ちが高まり、次々に新しいセリフや動きを付け加えていきました。子供たちはその急な変更にも見事に応えてくれて、大変頼もしく感じました。

（エンディングの場面、たくさんの変更点も含み、見事に演じ切りました。）

「楽しかった！」「来年も劇がやりたいな！」そんな声が、帰ってきた教室から聞こえ、ここまでの努力が報われた気がしました。演劇を行う意義はもちろん多くあると思います。ただ何よりも、このメンバーで最初で最後の劇を、全員が一致団結することで成功させた、その達成感や幸福感を胸に、これからの学校生活を楽しく過ごして欲しいと願っています。最後になりましたが、当日会場においてクイズに答えたり、一緒に「タピオカツンドラ！」と唱えたりしてくださった保護者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。